

表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)投稿規定

2017年11月6日

公益社団法人日本表面科学会編集委員会
一般社団法人日本真空学会

会誌「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」は、公益社団法人日本表面科学会、一般社団法人日本真空学会が共同で発行する会誌である。この会誌は、真空及び表面科学の基礎と応用、それらの関連する分野に関する研究論文及び学会機関誌として必要な情報を掲載する。全ての投稿原稿は、日本語または英語で記載し、編集委員会の審査を受け掲載の可否が決定される。投稿された全ての論文及び記事の著作権は公益社団法人日本表面真空学会に帰属する。

1. 名称及び出版形態

会誌は、「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」とする月刊誌で、冊子版(ISSN 2433-5835)、オンライン版(ISSN 2433-5843)のふたつの形態で出版する。オンライン版は、科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)で公開される。

2. 投稿資格

会員は、論文または記事を会誌に投稿することができる。会員以外の投稿は原則として編集委員会が依頼したものとする。

3. 投稿原稿

3.1 投稿者は、「執筆の手引き」に従い原則として「投稿原稿テンプレート」を用いて原稿を執筆しなければならない。

3.2 投稿者は、「投稿票」、「テンプレート貼り付け原稿(word形式推奨)」及び「図・表の電子ファイル」を Web 投稿サイトから投稿する。投稿に当たっては「Web 投稿の手引き」を参照のこと。上記ファイル類は、日本表面真空学会誌の Web サイトからダウンロードできる。

http://www.sssj.org/jsssj/kaishi_index.html

<https://mc.manuscriptcentral.com/jsssj>

4. 原稿の種類

投稿原稿は、原著論文(研究論文、速報)、総合報告、研究紹介、ノート、ポピュラーサイエンス、実験ノウハウ、談話室、メッセージボード、先端追跡、製品紹介、講座、解説、編集委員会で企画した記事及び学会からの連絡とし、投稿者が投稿時にその分類を指定する。また投稿原稿には、著者自ら投稿する一般投稿と、編集委員会より執筆を依頼する依頼投稿の区別がある。

4.1 論文及び記事内容は、下記に従うものとする。

a. 原著論文(Original papers)

原著論文は、本誌のために新たに書き下ろされたものを指し、既に発表したもの及び投稿中の論文と同一内容またはきわめて類似した内容を含まない。

1) 論文(Regular articles) 基礎および応用に関する独創的な研究を内容とする論文。科学的、技術的観点から価値あるものと判断できるもの。(6 ページ以内)

2) 速報(Letters) 原著論文に該当する論文のうち、重要な結果が得られており、早急に公表すべき内容の論文。(3 ページ以内)

b. 解説(Reviews)

ある分野の動向や研究内容、技術内容などをわかりやすく解説する記事とし、執筆者の思想、主張が盛り込まれた報告で、原則として未発表のデータを含めないこと。引用文献が整備されていることが望ましい。原則として、編集委員会から執筆を依頼する。 (6 ページ以内)

c. 巻頭言(Preface)

関連分野の現状、方針についてその意見、見解を述べる記事であること。原則、依頼原稿とし毎月掲載する。(1 ページ)

d. 企画主旨(Introduction)

発刊される号の特集記事に関連して、企画を担当する代表者が主旨の説明。(3 ページ以内)

e. 総合報告(Over view)

発刊される号の特集記事に関連する研究動向、技術動向について、その分野全体を俯瞰する総合的な報告。(8 ページ以内)

f. 研究紹介(Current topics)

基礎および応用に関して、執筆者あるいはそのグループが行った最近の研究内容を中心に紹介・解説する記事であること。原則として未発表データは含まないこととし、図表等においては引用文献を明確にする。(6 ページ以内)

g. 技術紹介(Technical topics)

基礎および応用に関して、執筆者あるいはそのグループが行った装置開発、材料開発、技術的内容に関する内容を中心に紹介・解説する記事であること。個別の商品の販売を目的とした宣伝用の内容は含まない。(6 ページ以内)

h. 講座(Lectures)

講座に含まれる分野を俯瞰し、初学者にも理解できるよう配慮された教育的な観点を持つ記事であること。実験法や分析法のテクニックやノウハウ、研究史・技術史、レビューサイエンスなども含む。(6 ページ以内)

i. 連載記事(Planning series)

その他編集委員会企画・判断した記事で、期間を決めて連載する企画や、談話室に分類されない各種記事など。広く学会員からの一般記事を受け付ける。執筆者からの提案を編集委員会にて検討採択する。(内容に応じてページ数は編集委員会にて検討)

j. 談話室(Science café)

読者のための自由な話題提供・情報交換のページ。最近の話題、研究室紹介、海外報告、学会や研究会・シンポジウムの紹介、コーヒープレイク(近頃思うこと)など、幅広い読者の興味をひく記事であること。(内容に応じて数ページ以内)

k. 先端追跡(News & Trends)

専門分野において面白く新鮮な話題を紹介する記事であること。(1 ページに 2 件)

4.2 二重投稿と文献引用、捏造に関する注意

4.2.1 同一著者またはその一部が執筆し既発表または投稿中の論文と同一内容またはきわめて類似した内容を投稿した場合を二重投稿とみなす。ただし、解説、総合報告及び研究紹介は除く。

4.2.2 他の雑誌などに公表または投稿中の同一の実験データ(図・表)、またはきわめて類似

の実験データ(図・表)を、当該論文中に記載した場合も二重投稿とみなす。ただし総合報告と研究紹介記事で注釈や参考文献の形式に則り、適切に引用されている場合は、二重投稿には当たらないものとする。

4.2.3 いずれの記事においても、引用文献等の出典を明記すること。いかなる理由が有ろうとも事実を歪めて記述したり、虚偽のデータを公表したりしないこと。他者の図表を部分的にでも改ざんすることは捏造にあたる。

4.3 論文及び記事の長さ

論文及び記事の刷り上がりの長さは、図表・参考文献を含めて以下のとおりとし、テンプレートで確認する。

原稿が指定頁数を超過する場合、別途料金が発生し、著者がこれを負担する。

5. 投稿原稿の取り扱い

5.1 原稿の受付日は原稿が電子投稿された日とする。ただし、事務局による代理投稿の場合は、代理投稿日とする。

5.2 編集委員会は投稿原稿の採否を決定するとともに原稿の内容に関して著者に修正を求めることができる。修正を求められた場合、著者は査読所見、担当編集委員所見に対する回答を添えて速やかに修正原稿を提出すること。修正を求められた日から二カ月経過後に原稿が提出された場合、原則としてその日を新たな受理日とする。また六カ月を経過しても原稿が提出されない場合は、撤回されたものとみなす。

5.3 著者校正は原則一回とし、校正の際の加除筆は、原則として印刷の誤り以外は、認めない。

5.4 大幅に訂正された原稿は、新規投稿原稿とする。

5.5 他の出版物の著作権に抵触する場合は、著作権使用の承諾書を投稿原稿に添付すること。

5.6 一般投稿論文の著者は、掲載論文の別刷りを少なくとも50部購入するものとし、これをもって投稿料とする。(価格は、別刷り価格表を参照)

5.7 依頼投稿論文の著者は、希望に応じて別刷りを購入できる。(価格は、別刷り価格表を参照)

5.8 冊子版で、カラー印刷を希望する場合は別途料金が発生し、著者が料金を負担する。オンライン版では、カラー図の掲載による著者負担は無い。

5.9 会誌「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」に掲載された全ての論文及び記事の著作権は公益社団法人日本表面真空学会に帰属し、他の出版物に掲載する場合は、本学会の承諾を得なければならない。

5.10 原則として論文や記事を受理された際に著作権の譲渡書類を提出する。著作権の譲渡を許可しない組織に帰属する場合は、その旨を日本表面真空学会事務局に連絡する。

5.11 会誌「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」に掲載された論文や記事のpdf ファイルを、個人または研究室が開設する Web サイトや SNS などに掲載することや配布することはできない。なお、機関リポジトリへの掲載にあたっては、「機関リポジトリへの対応について」に従う。

6. 掲載論文・記事の引用

会誌「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」に掲載された論文や記事を引用する場合には、会誌名称を下記の通りにする。

Vacuum and Surface Science

Vac. Surf. Sci.,

本投稿規定に関する意見要望は、下記学会事務局までお申出ください。

学会事務局：公益社団法人日本表面科学会

(一般社団法人日本真空学会)

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5階

Tel : 03-3812-0266 Fax : 03-3812-2897 e-mail : hyomen@sss-j.org

表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)執筆の手引き

2017年11月6日

公益社団法人日本表面科学会編集委員会
一般社団法人日本真空学会

会誌「表面と真空(正式名称 Vacuum and Surface Science)」に投稿する際は、「投稿規定」及びこの「執筆の手引き」に従い原稿を執筆する。投稿は J-STAGE の投稿審査システムを用いて行い、手順の詳細フローは「Web 投稿の手引き」に記された手順に従う。

1. 投稿原稿の作成

1.1 原稿の構成

原著論文・解説・総合報告・研究紹介・技術紹介・講座の原稿は、「投稿原稿テンプレート」を用いて以下の順に表記すること。

- 1) 表題
- 2) 著者名
- 3) 所属機関
- 4) 所在地
- 5) Title
- 6) Author(s)
- 7) Affiliation(s)
- 8) Address
- 9) 英文要旨(和文要旨*)

原稿本文の要旨を英文で書く。原著論文、解説、総合報告、研究紹介、技術紹介は 150 語程度とする。ギリシア文字などの特殊文字の使用はできる限り避けることが望ましい。講座、談話室の原稿には英文要旨(及び和文要旨)は不要である。

*和文要旨は「英文要旨の和訳」とし、投稿票に記載する。

10) キーワード

原著論文・解説・総合報告・研究紹介・技術紹介は、英文キーワードを 5 つ以内で取り上げ、KEYWORD: に続けて原則小文字で書く。

11) 原稿本文

和文の場合には、常用漢字を用い、新仮名使いで記す。英文の場合は、米国綴りを推奨する。

※上記以外については、事務局より執筆依頼時に指示する。

1.2 原稿の体裁

原稿は、原則として「投稿原稿テンプレート」を会誌ホームページよりダウンロードし、原稿の長さや図の質(Web 掲載も意識)、文字の見易さなどを確認するとともに用紙の下中央に頁番号を打つこと。

http://www.sssj.org/jssj/kaishi_index.html

1.3 電子ファイルの作成(Web 投稿の手引きを参照のこと)

a. 投稿原稿のテンプレートを用い、図を貼り付ける。図は鮮明であること(300 dpi 程度以上)。原稿送付は、Word 形式(.doc または.docx)(推奨)または PDF (.pdf)とする。また、投稿票、カバーレター(速報のみ)を用意する。

b. 図・表の電子ファイルは、300 dpi 程度以上で独立したファイルとして作成する。電子ファイルの拡張子は、.pdf .eps .jpeg .png .gif .jpg .tif .tiff 形式とする。査読プロセスにおいては、図表を Power point ファイル(.ppt)にまとめたもので構わないが、採択後は独立した図表ファイルを用意する。

c. アップロードできるファイルの容量は総計 20MB とする。

2. 原稿本文作成時の諸注意

2.1 表題には、原則として略語の使用は認めない。ただし略語の併記を認める。

[例] ポリエチレンテレフタレート(PET)フィルム, ダイヤモンド状炭素(DLC), 巨大磁気抵抗(GRM), 化学気相成長(CVD)。

2.2 句読点

和文の場合には、句点は「。」、読点は「,」を使う。

2.2 数字

本文中で使用する数字は、原則としてアラビア数字とする。位取りのコンマは付けない。

[例] 1,500 K → 1500 K

漢字やひらがなと結合し名称として現れる数字は漢数字とする。

[例] 一つ, 二重線, 三体問題

2.3 立体とイタリックの使い分け指針 (ここでのルールはあくまでも指針であるため, 論文内で統一されていれば必ずしも従わなく良い)

a. 変数を示す記号: 原則としてイタリック体とする

[例] 座標軸 x, y, z

[例] 化学式, 化学反応式の変数 $La_{2-x}Sr_xCuO$

[例] フェルミエネルギー E_F (F は Fermi を表し, 物理量ではないので立体)

[例] i 番目の原子位置 R_i (i は変数なのでイタリック体, ベクトル R は太字に)

b. ラテン語: 全てイタリック体とする。

[例] *ab initio a priori ca. e. g. et al. in vivo i. e. in situ vs. etc.*

c. 演算記号・単位: 演算記号や単位は立体とする。単位は原則として国際単位系(基本単位, 補助単位, 固有の名称を持つ組立単位含む)を使用すること。

[例] sin cos exp Δ

[例] m(長さ) s(時間:秒) min(時間:分) h(時間:時) mol(物質質量) kg(質量) K(温度) J(熱量) Pa(圧力) V(電圧) Ω (電気抵抗)

d. 元素記号・電子軌道: 立体とする。

[例] Cu, Zn, CH₃OH

[例] 3d 軌道, O 2p 準位

2.4 省略語

省略語は、最初に出てくるところで原綴りを書く。

[例] 密度汎関数理論 (density functional theory, DFT)

2.5 外国人名・地名

外国人名や地名は原綴りとする(アルファベット以外の文字の場合は, 英語に直したものをを用いること) ただし, 人名が学術語となっている場合, 日本でよく知られている地名の場合は, カタナを使うことが出来る。

2.6 脚注

本文中に *, ** などの上付き記号で示し, それが現れる頁の下部に本文とは別に脚注のためのスペースを設け, その欄に記すこと。

3. 図表

3.1 本文中, 図は Fig. 1, 2, 3(a), Fig. 3(b), …, 表は Table 1, 2, … で指し示すこと。

3.2 図や表のキャプションは英文とする。

3.3 図や表の中の文字は英字を用いること(数量記号して用いるギリシア字は使用できる)。

3.4 カラー図について

- a. 著者は、図を白黒もしくはカラーのどちらで出版するかを投稿票指定することができる。
- b. オンライン版ではカラー図を推奨する。ただし、同じ図を冊子版で白黒図に指定することが可能である。
- c. 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合、著者はカラー図と白黒図の双方を作成しなければならない。

3.5 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合の注意点

- a. 図キャプションでは、次のように color online の文言を付けること。

[例] Fig. 1 (color online).

- b. 本文中では、図に用いた色、または濃淡を指し示す解説をしてはならない。

[してはならない例 1] 赤色で示された領域は…ある。赤色で示された領域は…ある。

[してはならない例 2] 薄い太線は、…の変化を示したものである。

(注) 同一図が冊子版とオンライン版でカラーの場合あるいは白黒の場合にはこれに当てはまらない。

4. 文献

4.1 本文中では引用文献を 1) のように、あるいは 2, 3) や 4, 7) のように肩書きした番号で指定すること。

4.2 一つの引用番号に対しては一つの論文のみを引用すること。複数の引用論文を一つの引用番号に割り当てはけない。

4.3 本文の末尾に、引用した文献を対応する番号と共に一覧にして記すこと。

4.4 本文の補足説明は脚注(2.6 節参照)を利用し、引用文献欄に補足説明を付記するのは避けること。

4.5 推奨されない書き方(英和文混合は避ける)

推奨されない書き方 → 1) 例えば, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002) を見よ。

推奨される書き方 → 1) See, for example: H. Nakai, Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002).

4.6 引用文献の例

書き方は、ジャーナルの場合には「著者名：雑誌名 巻数, 開始頁 (発行年)」、図書の場合は「著者名：“書名” [エディタ名] (出版社, [出版社所在地,] 出版年) [章あるいは開始頁]」(□内は省略可)を基本とする。

原著論文、総合報告、研究紹介、実験ノウハウの引用文献は著者全員の名を明記すること。

その他、学位論文、予稿集、特許に関しては下記を参照のこと。

和文ジャーナル・和文図書・英文図書の名称は省略できない。英文ジャーナルは省略が可能である。英文ジャーナルの省略規則はアメリカ物理学会アメリカ物理学会(APS), もしくはアメリカ化学会(ACS)のホームページ頁を参照のこと。省略規則があいまいな場合には、省略せず全て書くこと。

<http://d22izw7byeupn1.cloudfront.net/files/styleguide-pr.pdf>

<http://www.cas.org/content/references/corejournals>

和文ジャーナルでは、著者名と雑誌名を英字で表記し、最後に(in Japanese)とすることを推奨するが、和文表記でも構わない。ただし、混用は避けること

- a. 和文ジャーナル
 - 1) 吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整: 表面科学 **23**, 25 (2002).
- b. 英名和文ジャーナル
 - 2) 中村誠: J. Surf. Anal. **7**, 91 (2000).
 - 3) M. Matsumoto : J. Vac. Soc. Jpn., **52**, 47 (2009). (in Japanese).
- c. 英文ジャーナル
 - 4) T. Hirahara, I. Matsuda and S. Hasegawa: e-J. Surf. Sci. Nanotech. **2**, 141 (2004).
 - 5) K.L. Brogan, J.H. Shin and M.H. Schoenfish: Langmuir **20**, 9729 (2004).
 - 6) Y. Morikawa: Phys. Rev. **B63**, 033405 (2001).
- c. 和文図書
 - 7) 井口洋夫, “シンクロトロン軌道放射光” 市村禎二郎, 旗野嘉彦, 井口洋夫編 (学会出版センター, 1991).
 - 8) 藤本大三郎編: “細胞外マトリックスのバイオサイエンスとバイオテクノロジー” (アイシーピー, 2010) p. 111.
 - 9) 日本表面科学会編, “X 線光電子分光法” (丸善, 1998).
- d. 英文図書
 - 10) S. Morita, R. Wiesendanger and E. Meyer (Eds.): “Noncontact Atomic Force Microscopy”(Springer, Berlin, Heidelberg, 2002).
 - 11) H. Seki: “Electrochemical Surface Science”, ed. by M.P. Soriaga (The American Chemical Society, Washington, D.C., 1988) p. 322.
 - 12) “Surface Analysis by Auger and X-ray Photoelectron Spectroscopy”, ed. by D. Briggs and J.T. Grant (IM Publications, 2003).
- e. 学位論文
 - 13) 近藤剛弘: 筑波大学大学院工学研究科博士論文(2003).
 - 14) D.A. Mantell: Ph.D. Thesis, Yale University (1983).
- f. 講演大会予稿集(頁が無い時は, 代わりに発表番号を記載)
 - 15) 石井達也, 加藤英樹, 工藤昭彦: 日本化学会第 78 春季大会講演予稿集 I (2000) p. 322.
 - 16) 相馬清吾: 日本表面科学会第 31 回表面科学術講演会要旨集 (2011) 16Bp-01 .
 - 17) T. Murayama, Proc. of IS & T's 11th Int. Congress on Advances in Non - Impact Printing Technologies,開催地を挿入 (ex. Kyoto)(1995) p. 26.
- g. 特許
 - 18) 尾形俊昭: 特開昭 59-75205 (1984).
 - 19) J.S. Beck: U. Patent No. 5,057,296 (1991)

4.7 [オプション] DOI (Digital Object Identifier)の併記

DOI が付与されている引用文献に DOI を併記すると, リンクが付く可能性が高くなる。DOI を併記する場合, 以下の例を参考にすること。(DOI は必ずしも併記する必要はない。)

吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整: 表面科学 **23**, 25 (2002), doi:10.138/jsssj/23/285.

Y. Morikawa: Phys. Rev. **B63**, 033405 (2001), doi:10.1103/PhysRevB.63.033405.

5. 英文のチェック

アブストラクや図表のキャプションは, ウェブ頁への掲載や他の雑誌に引用されることもあるため, これら英文は, 著者の責任においてネイティブによるチェックなどを行うこと。

6. 転載許可

過去に掲載(発表, 出版)された論文の全体, または図や表の一部を投稿論文で使用する際は, 著作権を有する学会等への転載許可の申請が必要である。申請は著者の責任で行うこと。

本執筆の手引きに関する意見要望は, 下記学会事務局までお申出ください。

学会事務局：公益社団法人日本表面科学会

(一般社団法人日本真空学会)

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5 階

Tel : 03-3812-0266 Fax : 03-3812-2897 e-mail : hyomen@sss.jp